

稲刈りを体験する園児＝15日、福井市湊4丁目の社中央第一こども園



稲刈り「よこしよ」

園児、実りの秋に喜び

福井市の社中央第一こども園(湊4丁目)と同第二こども園(運動公園1丁目)の年長児38人が15日、いちほまれの稲刈りと脱穀に挑戦

し、収穫の喜びを味わった。食育の一環として毎年行っている。今年は新型コロナウイルスの影響で田植えを体験できなかったため、5月末からいちほまれやコシヒカリの稲をバケツやペットボトルで育ててきた。

稲刈りは同第一こども園で行われ、園児は地元農家のアドバイスを受けながら鎌を使い、60〜70センチほどに成長した稲を慎重に刈り取っていた。「千歯」という農具を使って脱穀もした。

同第二こども園の黒川聡太ちゃん(6)は「稲を引っ張るのが大変だったが楽しかった」と笑顔で話していた。

両園を運営する社会福祉法人やしろ中央会の山田健治理事長(73)は「お米がどうやってできるのかを園児たちに学んでほしい」と話していた。収穫した米は、

給食で園児に提供される予定。
(石川悠樹)